

## 事業評価シート（令和4年度実施事業）

事業名	<b>専門研修（福岡教師塾）</b>
-----	--------------------

### 1. 事業の整理（「どのような成果を期待して何をどのように行っているのか」その事業の目的等）

目的・必要性	<p>教職員一人一人が、自身のキャリアステージや職務に応じた資質・能力の向上を図る。</p> <p><b>【福岡教師塾】</b></p> <p>福岡教師塾の理念と教職員育成指標に基づいた福岡県の教育をリードできる人材の育成を目指して、本県の教育に関する課題に広い視野をもって柔軟に対応できる資質・能力の向上を図る。</p>
内容 (誰がどのように何をやるのか)	<p>目的を達成するために以下の3つの研修内容となるよう、各回で実施される全ての研修（講演・演習・協議・発表等）において意図的・効果的に構成する。</p> <p>(1) 視野や視座を広げる研修 (2) 共創する研修 (3) 在籍校の課題解決に資する研修</p> <p>重点1：連携・協働体制の構築</p> <p>① 部班を横断したチーム運営の推進【事務局】 ② 令和5年度福岡教師塾基本方針と研修運営計画の策定【プロジェクトチーム】</p> <p>重点2：特色ある研修の充実</p> <p>① アンケートの工夫・改善【各回研修担当】【企画・運営研修担当】 ② 令和4年度福岡教師塾基本方針の具現化【プロジェクトチーム】 ③ 自主選択研修の実施【企画・運営研修担当】</p> <p>重点3：広報活動の充実</p> <p>① 管理職等への周知と研修資料等での積極的な情報発信【事務局】【各回研修担当】 ② 既存のWebコンテンツの活用【プロジェクトチーム】 ③ 講座紹介スライド・動画等の作成【事務局】</p>

### 2-1 評価指標（総合的評価を行うに当たり運営基本方針に基づき立てた評価指標）

方針	具体的方策	達成指標	実績値
1 事業の 実現する 連携・協働の 効果的・効率的な 強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部班を横断したチームによる適切な研修運営体制の継続的な検討と実施による研修運営体制（チーム会議の回数、協議内容・方法、役割分担等）のモデル化</li> <li>・他県教育機関（教育センター等）と連携した研修体制の検討結果の反映</li> </ul>	<p>○部班を横断したチームによる研修運営モデルの確立（研修内容に関する検討会議の回数や実施前後の協議、役割分担等）（2月）</p> <p>◆他県の教育機関（教育センター等）と連携した研修の具現化：1回以上</p>	<p>○各回の役割分担（タイムスケジュール）作成：全8回</p> <p>△他県の教育機関と連携した研修：実施なし ※R5第4回で実施検討中</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトチームによる令和5年度福岡教師塾基本方針及び研修運営計画の検討・完成</li> <li>・R2-R4年度中期的事業運営方針に基づいた事業の総括及びR5-R7年度の中期的事業運営方針の検討、策定</li> </ul>	<p>◆プロジェクトチーム会議（令和5年度企画・R5-7中期的事業運営方針検討会議）：年6回以上</p>	<p>◎プロジェクトチーム会議：年8回実施 ※R5-8中期的運営基本方針の検討・完成：3月 ※令和5年度基本方針及び研修運営計画の検討・完成：3月 ※研修のしおり改善・作成：3月</p>

2-2 評価指標 (総括的評価を行うに当たり運営基本方針に基づき立てた評価指標)

方針	具体的方策	達成指標	実績値
<p>2 事業の継続的な質的向上を実現する運営システムの構築</p>	<p>・アンケート分析結果を基にしたチームによる協議を行う等、事後検証の内容・方法の工夫・改善を行う。</p> <p>・当年度塾生への事前調査による研修意欲の向上推進を図る。</p> <p>・前年度塾生への追跡調査による研修成果の還元を推進する。</p>	<p>◆各回の研修の総合達成度 : 3.5 以上</p> <p>◆企画・運営研修 : 達成度: 3.4 以上</p> <p>◆他県教育機関連携講座 : 達成度 3.4 以上</p> <p>○当年度受講者への事前アンケート (5 月): 1 回</p> <p>○前年度受講者へのアンケート (8 月): 1 回 研修成果の還元: 90%以上</p>	<p>◎総合達成度: 全回 3.5 以上 第1回 3.7、第2回 3.8、 第3回 3.8、第4回 3.6、 第5回 3.8、第6回 3.8、 第7回 3.8、第9回 3.9、</p> <p>◎企画・運営研修の達成度 全回 3.4 以上 第1回 3.6、第2回 3.7、 第3回なし、第4回 3.5、 第5回 3.7、第6回 3.8、 第7回 3.7、第8回 3.8 ※ 第3回は外部会場による研修</p> <p>×実施なし: 達成度 0% ※令和5年度実施を検討中</p> <p>◎当年度受講者事前アンケート : 1 回実施 (5 月) 【受講した理由】 ・資質・能力の向上: 25% ・新たな見方・考え方: 25% ・外部講師の講義・演習: 18%</p> <p>【期待していること】 ・外部講師による講義・演習: 67% ・企画・運営研修、熟識: 32%</p> <p>【高めたい力】 ・総合的な知見: 20% ・専門性: 17% ・組織運営: 16%</p> <p>【生かしたい場面】 ・学校経営、生徒指導、 人材育成等</p> <p>◎前年度受講者事前アンケート : 1 回実施 (10 月) 研修の還元 (予定含む) : 98.27% ※事業部会の他、各回終了後のアンケートを踏まえ、課題を整理し、次年度企画に反映</p>
	<p>・令和5年度福岡教師塾の外部講師選定に向けて、教育センター職員及び塾生にアンケートを実施し、情報収集を行い、令和5年度の福岡教師塾の行動指針、年間計画の策定及び外部講師の選定基準の見直しを行う。</p>	<p>○行動指針及び年間計画の作成、外部講師選定基準の見直し: ~8月行動指針決定 ~11月年間計画・講師選定基準見直し ~12月講師選定</p>	<p>○行動指針: 9月決定 ○年間計画・講師選定基準 : 11月作成 ◎外部講師アンケート : 7月実施 (塾生・職員) ○テーマ別外部講師リスト作成 : 9月完了 ○外部講師選定: 12月完了 ※第5回外部講師申請中</p>
	<p>・企業や関係教育機関等が公開している動画コンテンツを活用した自主選択研修を実施する。</p>	<p>○自主選択研修実施: 年2回以上</p>	<p>○自主選択研修: 3回実施 ※選択制にできなかった。 第1回: 事前動画視聴 第2回: 事前企業調査 第6回: 事前動画視聴</p>

### 2-3 評価指標 (総合的評価を行うに当たり運営基本方針に基づき立てた評価指標)

方針	具体的方策	達成指標	実績値
3 広報活動の充実 事業の成果を周知・普及する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センターで実施する管理職対象の研修及び県立校長会等における研修内容の説明と推薦依頼、関係機関への説明を行う等、積極的な情報発信を行う。</li> <li>・教育センターホームページ等を利用して、各回の研修資料及び報告書等の情報発信による広報活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象とする研修及び会議等における広報活動の実施：年2回以上</li> <li>◆各回の研修資料及び報告書の発信：各回終了後実施100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎各教育事務所への広報物持参及び校長会での配布と説明依頼：2回(12月・1月)</li> <li>◎各回研修報告書を教育センターホームページ公開：100%実施</li> <li>※研修終了後：全8回実施</li> <li>※アクセス数：9,658件(2/28)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や関係機関(独立行政法人教職員支援機構等)が公開している動画コンテンツを活用した研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Webコンテンツを活用した研修の実施：年2回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎事前研修：3回実施</li> <li>第1回：事前動画視聴</li> <li>第2回：事前企業調査</li> <li>第6回：事前動画視聴</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡教師塾の講座紹介スライド・動画等の作成と活用方法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講座紹介スライド・動画の作成：1本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○塾生の活動動画作成：1本</li> <li>○企画・運営研修「拓」研修動画配信</li> </ul>

### 3. 総合的評価 (評価指標の実績を基に必要性や有効性を総合的に評価)

方針	方策内容	評価	判断理由
1	連携・協働体制の構築	4	令和3年度から部班横断による部会員の主体的な研修の企画・運営を行い、各系の役割分担及びタイムスケジュールを作成し、リフレクションと改善を繰り返すことで、「部班を横断した研修運営体制」のモデル化を図ることができた。他県の教育機関と連携した研修を実現できなかったが、教育長をはじめ本庁他、他機関から依頼した講師と連絡・調整を十分に行うことができた。また、プロジェクトチームリーダーを中心とした企画・運営により、研修内容の改善が図られた。よって「妥当」と判断する。
2	特色ある研修の充実	4	<p>塾生に事前アンケートを実施し、塾生の主体性を生かす研修になるよう、外部講師による講座及び企画・運営研修「開」・「拓」の内容に随時改善を重ねながら研修を実施した。その結果、外部講師の講座に対する評価は平均3.8と例年通り高く、熟議を重ねる企画・運営研修の評価も平均3.7と高い。所属長アンケートの結果からも企画内容が学校に還元できるものとなっており、研修の満足度も3.9と非常に高い。また、Google Classroomを活用したことで塾生同士の主体的な学びが推進されたことも成果である。</p> <p>10月に前年度受講者へのアンケートを実施し、所属校での研修成果の還元が98.3%と非常に高く、福岡教師塾での学びが、学校現場で還元されていることを確認した。よって「妥当」と判断する。</p>
3	広報活動の充実	4	<p>専門研修部会と連携してパンフレットを作成し、教育事務所や校長会等における直接広報を2回実施し、募集状況(定員24名に対し申込者数53名[2.2倍])から十分な効果が確認できた。</p> <p>教育センターホームページへの研修報告書の公開や外部講師の講義動画を研修後に一部県内教職員向けに公開配信したことにより、福岡教師塾の研修内容について周知を図ることができた。塾生のアンケート結果から、ホームページを活用して研修報告を校内で行うなど、利活用も図ることができた。よって「妥当」と判断する。</p>

※ [評価] 4：妥当 3：ほぼ妥当 2：要検討 1：不十分

#### 4. 課題・問題点 (以上の自己点検・評価結果から見えてくる課題・問題点)

方針	方策内容	課題・問題点
1	効果的・効率的な連携・協働体制の構築	令和4年度は、「部班を横断した研修運営体制」のモデル化を図ることができたが、次年度の機構改革に伴いさらに効果的・効率的な講座運営を推進する必要がある。そのために今後も、研修終了後に業務内容の見直しが必要である。 また、各回の会議を計画的に実施できなかったため、「外部講師」「企画・運営研修『開』」「企画・運営研修『拓』」のプロジェクトチームリーダーを中心とした会議を効果的・効率的に行う必要がある。
2	研修の継続的な質的向上を実現する運営システムの構築	外部講師による研修においては、外部講師と直接ディスカッションできる場を設定するなど、研修形態の更なる工夫により、より魅力の向上を図る余地がある。 受講者アンケートの結果から、企画・運営研修「開」「拓」ともに協議が白熱し時間が不足したり、役割によって自己評価（達成度）に差が見られたりしたため、班構成や協議・演習の時間配分等に工夫が必要である。また、研修の効果を高めるために、事前動画視聴等の事前課題を計画的に設定する必要がある。
3	広報活動の充実	受講者アンケートの結果から、受講動機は「管理職の勧め」が83%、「研修内容に興味」や「自身の資質・能力の向上」等が60%であった。「令和5年度教員研修計画」を踏まえ、管理職研修等における広報活動の更なる充実と受講の対象となるキャリアステージの研修の焦点化を図り広報活動を行う必要がある。 また、研修の認知度を高め、受講のイメージを伝える工夫が必要である。

#### 5. 令和5年度の改善及び進捗状況

(課題・問題点に対し、令和5年度の事業に反映させた改善点及びその進捗状況)

方針	方策内容	改善状況
1	事業の効果的・効率的な運営を実現する連携・協働の強化	① 魅力ある外部講師招聘に向けて、計画的な情報収集と各機関との連携 ・外部講師招聘のために所内・塾生へアンケート調査を実施する。また、企業や本庁他、他機関に研修のねらいを踏まえ丁寧に交渉・依頼することで連携を図る。 ② 令和6年度福岡教師塾基本方針と研修運営計画の策定 ・受講定員及び研修形態については、部会員の人員体制に応じた適正な受講定員及び研修形態になるように、学校や地域の現状・ニーズに合わせて毎年度検討するとともに、効果的な研修が行えるよう調整を行う。 ・部会員によるICTを活用した運営資料等の共有化を図り、業務の合理化を図る。
2	事業の継続的な質的向上を実現する運営システムの構築	① 令和5年度福岡教師塾基本方針の具現化 ・令和6年度から令和8年度の中期的事業運営基本方針に基づいた基本方針を策定し、より効果的に資質・能力を育成することができるよう、研修のねらいとつながりを明確にした全8回の研修計画を作成する。また、適切な外部講師の選定等、講座内容の質的向上を継続的・発展的に図る。 ・ICTを活用した効果的・効率的な研修運営を行い、研修の確実な実施と業務負担の軽減を図る。 ② アンケートの対象や時期（受講者〔事前・受講後・修了後〕・前年度受講者）の改善を図り、効果的な研修実施 ・研修効果を把握し、効果的な研修とするため毎回の研修後に受講者の変容度、有用度をアンケートする。また、研修修了後には推奨度アンケートを行い、運営に生かしていく。 ・「福岡県教員育成指標」に基づき、育成を目指す資質・能力を焦点化した研修を企画・運営する。 ③ 塾生の主体的な研修体制の構築 ・研修において班構成や役割分担を工夫することで塾生の変容度の向上を図る。

3	事業の成果を周知・普及する効果的・効率的な広報活動の充実	① 研修内容及び成果に関する情報発信の推進 ・募集にあたり、福岡教師塾の趣旨と成果を周知するため、支援部会と連携し、管理職及び関係機関等に対して積極的な情報発信を行う。 ・教育センターホームページ等を通じて、受講者の研修成果やイメージが伝わるスポットムービー等の発信を行う。
---	------------------------------	---

## 令和6年度以降に向けた事業改善一覧表【教師塾部会】

事業評価委員会委員の意見(課題・問題点等)要旨	左の意見に対する対応方針 (該当項目に■印) (□R6年度に改善する □中期的(2~5年)に改善する □(5年以内の)対応は困難)
<p>教師塾については、引き続き、外部講師を民間企業等から積極的に招聘し、「経営戦略」、「人材育成」、「ソリューション」など、企業の持つマネジメント的思考を学校経営に反映させるべき。</p>	<p>□R6年度改善 ■中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 計画的に所内及び受講者から幅広く外部講師候補者についてアンケートを実施するとともに、研修のねらいを踏まえた上で、関係機関と連携し、教育界だけではなく、民間企業等の外部講師をバランスよく招聘していくこととしている。</p>
<p>教師塾については、今後も、本県教育の中核的人材を育成する特色ある講座として、その趣旨に沿った講師の招聘等を行って欲しい。</p>	
<p>教師塾については、R5年度実施に当たり人数を減らしているが、塾生の自主的な運営を促すことで運営側の負担を軽減し、従来の人数に戻してはどうか。</p>	<p>□R6年度改善 □中期的改善 ■対応困難 □HP掲載は不要 効果的・効率的に本県の教育に関する課題に広い視野をもって柔軟に対応できる資質・能力の向上を図ることを目的として、R5年度から長期派遣研修員を教師塾の塾生として参加させているところであり、受講人数全体を考えると、従来とほぼ同人数が受講できるようにしている。</p>
<p>教師塾については、教師自らの在り方や生き方を問い直すための教育哲学や人間学を重視した研修内容をさらに盛り込んでみてはどうか。</p>	<p>□R6年度改善 ■中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 研修内容、研修形態については、各回のねらいと内容のつながりを明確にした全8回の年間研修計画を作成しており、こうした趣旨を踏まえつつ、様々な視点から外部講師の選定基準の見直しを行う等、講義内容の改善・充実を図っていくこととしている。</p>
<p>教師塾については、研修での学びが学校現場で還元されている。今後も受講生の厳選、その後の活躍の場の保障を望む。</p>	<p>□R6年度改善 ■中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 受講生の厳選については、研修の趣旨に即した受講生の推薦がなされるよう、研修報告書等の資料と併せてスポットムービーを配信すること等により、研修内容と効果について各学校の管理職への周知を図っていくこととしている。活躍の場の保障については、学校現場で研修成果をどのように実践していくかについてアンケートを実施し、その結果を周知するなどして現場での還元を図っていくこととしている。</p>
<p>教師塾については、継続的に素晴らしい講師陣を迎えることができるよう工夫が必要である。また、塾生は毎年変わるため、素晴らしい講師は翌年度も継続して招聘することも検討して欲しい。</p>	<p>□R6年度改善 ■中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 計画的に所内及び受講者から幅広く外部講師候補者についてアンケートを実施するとともに、研修のねらいを踏まえた上で、関係機関と連携し、教育界だけではなく、民間企業等の外部講師をバランスよく招聘していくこととしている。また、有用な講師については、次年度も継続して招聘していくこととしている。</p>

事業評価委員会委員の意見(課題・問題点等)要旨	左の意見に対する対応方針 (該当項目に■印) (□R6年度に改善する □中期的(2~5年)に改善する □(5年以内の)対応は困難)
R5年度から長期派遣研修員を教師塾の塾生として研修を実施していることについて、研修効果の検証が必要である。	□R6年度改善 ■中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 長期派遣研修員の研修効果に関しては、従来の塾生と同様、長期派遣研修員に対してアンケートを実施するなどして、意識の変容や学校現場での研修内容の活用方法を把握し、その効果を分析・検討していくこととしている。
教師塾については、期待の大きい事業であるため、持続的な発展と波及効果拡大の継続的な検討が必要。	□R6年度改善 ■中期的改善 □対応困難 □HP掲載は不要 教師塾については、R4年度から前年度の塾生に対して、研修成果の活用について追跡調査を実施している。当該調査のためのアンケート内容の工夫や、調査結果に基づく教育効果の分析を継続的に実施することで、他の研修との差別化を図るとともに、効果的な研修実施に向けた工夫・改善を行うこととしている。
教師塾については、今後も、本県教育の中核的人材を育成する特色ある講座を実施して欲しい。	